

『受験』と『人生の実力』

毎年この時期には、「進路資料」ができあがります。3月に卒業した生徒の在学中の成績推移と合格先を資料化（本人の了解のもと）したものと合格体験記が掲載されています。そのなかの一部を紹介します…

東京大学に合格したAさんは、「自分は効率も、要領も、記憶力も悪いから、時間だけは稼ごう」という作戦で、平日5時間以上、休日10時間以上を目標に勉強しましたと書いてありました。そしてそれを継続するために「棒グラフ」に記録していたようです。この「棒グラフ」はなかなか効果的でやる気を継続させます。逆に北大文学部に進学したBさんは、時間にこだわるのではなく、「何を勉強するか」が大事で、計画をたてて今日ヤルと決めたことは次の日に持ち越さない！と書いていました。昨年北大医学部医学科に進学したCさんも同じようなことを言っていました。それぞれ自分を知り、個性にあった勉強スタイルをとっているようです。朝7時には遺愛に来て勉強する朝型スタイルの勉強を貫いた先輩が多くいました。部活との両立ということでは、バスケット部で超ハードな練習と勉強を両立させながら北大工学部に現役合格したEさんの言葉も説得力があります。…受験勉強でめんどくさい問題が出てきたとき、部活の死にそうなダッシュメニューとその問題を比べて「この問題をヤルほうがましだ！」と思ったそうです。彼女は昨年度の函館バスケットボール協会優秀選手5人の1人に選ばれました。しかし高体連全道大会終了後はぱっと切り替えて毎朝早くから、遺愛の自習室で勉強していました。

読んでいて、とても嬉しいと思うことがあります。

それは感謝の言葉がたくさんちりばめられていることです。念願かなって第一志望校に入れた先輩も残念ながらそうでなかった先輩も、一緒に頑張った仲間、支えてくれた保護者、親身に指導してくれた遺愛の先生方に心から感謝していることです。Fさんが次のように書いていました。彼女はセンター試験に失敗して第一志望を変更せざるをえなく、挫折感も味わったようですが、「今回合格して本当に感じたのは、私の合格を自分のことのように喜んでくれた家族、友達、先生方のありがたみでした。本当に幸せだなーと思います。本当に感謝しています。遺愛の友達には本当にみんな頑張っていて素敵です。努力という言葉はまわりの友達に教わった気がします。高校生活で自分のまわりに溢れている感謝の気持ちに気づきました。どんな状況にあっても、常に感謝することを忘れずに、大学、社会人へとなっていきたいと思います」と未来への決意で結ばれていました。ある方が「人生の実力」を身につけることの大切さを語っていました。周りへの感謝の気持ちを意識して持とうと努めることは、「人生の実力」の一つです。

就職試験にしても大学・短大・看護学校への入学試験にしても、それにむけての準備は大変です。一生懸命やっても悩むことがたくさんあります。でも逃げずに仲間とともに前向きに取り組む中で、遺愛の先輩達が試験への合格力とともに「人生の実力」をつけていることがとても嬉しいです。

2010年5月28日

